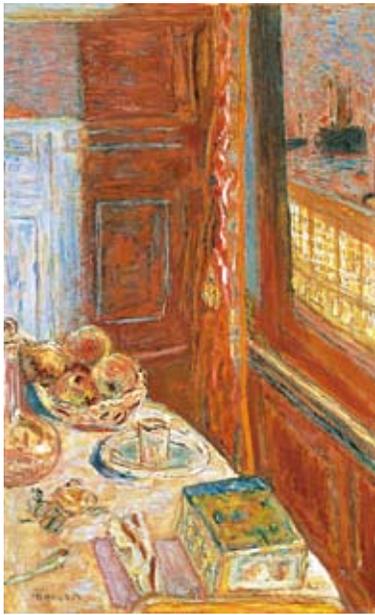


# アサヒビール

アサヒビール大山崎山荘美術館で企画展「光と灯り」を来年4月13日まで開催  
クロード・モネの油彩画など約80点展示



ピエール・ボナール《開いた窓辺の静物》

アサヒビール大山崎山荘美術館(京都府乙訓郡大山崎町)は、クロード・モネの《エトルタの朝》や河井寛次郎の《海鼠釉片口》など約80点を展示する企画展「光と灯り」を今年9月21日から来年4月13日まで(前期・2013年9月21日〜2014年1月13日、後期・2014年1月17日〜4月13日)を開催している。同展は、明るさをもたらす

光はいくつもの表情がある、ということに気づかせてくれる同美術館のコレクションを通し、私たちを惹きつけ、照らし、導いてくれる「光」そして「灯り」について改めて考える展覧会で、「光の画家」と呼ばれる印象派クロード・モネの油彩画から、さまざまな釉薬によって独特の光沢を放つ古陶磁や河井寛次郎らの陶磁器、また、かつて日本の

暮らしを支えた19世紀の行灯皿など、光と灯りにまつわる名品を中心に出品。安藤忠雄氏設計建築の「地中の宝石箱」(地中館)では西洋近代絵画の巨匠たちが描いた作品を展示しており、エトルタの海辺に降り注ぐ朝の光をカンヴァスにとどめたクロード・モネの《エトルタの朝》(1883年)をはじめ、同《睡蓮》(1907年)、ピエール・

ボナールの《開いた窓辺の静物》(1934年)にみられる自然光から、パウル・クレアの《大聖堂(東方風の)》(1932年)やジョルジュ・ルオーの《聖書の風景》(1956年)など人々の祈りの対象としての光まで、光の表現を特徴とする平面作品を紹介している。

## 山手館で初公開の収蔵品を含め、世界の古陶磁を展示

また、大正から昭和期の名建築・大山崎山荘(本館・登録有形文化財)では、《海鼠釉片口》(1933年頃)な

ど呉須、辰砂、鉄釉、塩釉ほか、さまざまな釉薬が独特の光沢を織り成す河井寛次郎や濱田庄司らの陶磁器を中心に紹介。さらに人の手でつくり出される光である「灯り」にも焦点を当て、かつて日本の暮らしに欠かすこと

のできなかった19世紀の行灯皿など照明用具を展示するとともに、関西の実業家・加賀正太郎の住まいであった大山崎山荘内を百年にわたり彩ってきた加賀正太郎こだわりのランプシェードやステンドグラスに秘められた美にもスポットを当てている。そして、昨年6月にオープンした安藤忠雄氏設計建築「夢の箱」(山手館)には、《スペインラストアー彩鉢》(18世紀)や《ペルシャ 緑釉銀化獣頭瓶》(10〜11世紀)など、さらさらしく輝くうつわを中心に初公開



パウル・クレア《大聖堂(東方風の)》

の収蔵品を含め、世界各地の古陶磁を出品している。

## 関連イベントとして「ギャラリートーク」なども開催

このほか、同展の関連イベ



クロード・モネ 《エトルタの朝》

ネの庭」  
抹茶、ほ  
うれん草  
さつまい  
ものケー  
キ、「ク  
レーの天  
使」クリ  
ームチー  
ズ、ホワ  
イトチョコ  
コレート  
のケーキ  
「ルオー  
のステン  
ドグラ

ントとして、同美術館学芸員による展示の見どころ解説「ギャラリートーク」(同展期間中の第2、第4土曜日・11月23日、12月14日を除く、各回午後2時〜2時30分、会場・同美術館展示室、参加費・無料、ただし美術館入館料は別途必要、事前申込不要)や、同美術館学芸員による企画展の理解をより深めるためのレクチャー「光と灯りのコレクション」(アサヒラボ・ガ

デン提携企画、2014年1月18日、午後2時〜3時、会場・アサヒラボ・ガーデン/最寄駅・JR大阪駅、各線梅田駅、参加費・無料、定員・40名、アサヒラボガーデンのホームページより要申込・抽選)が行われ、同美術館本館2階の喫茶室ではカフェ企画としてリーガロイヤルホテル京都が同展のために考案した3種類の特製オリジナルケーキ「芸術家たちの光」「モ



《スペイン ラスター彩鉢》

ス」オレンジ、レモン、トロピカルフルーツのケーキ、各500円・税込、美術館入館料は別途必要を同展期間中提供している。また、クリスマス・スペシャルウィーク(2013年12月17日〜25日)には、本館で同志社リーダー克蘭ツによる合唱を楽しむ「洋館のクリスマスキャロル」(12月22日、午後2時〜2時20分と午後4時〜4時20分、参加費・無料、ただし美術館入館料は別途必要、事前申込不要)、学芸員によるデイスクの交換実演や解説を交えな

無料、障  
学生以下  
円)、中  
高大生500円(同・400  
なお、同美術館はJR東海道線・山崎駅または阪急京都本線・大山崎駅から徒歩約10分で、入館料は一般900円(20名以上の団体・800円)、  
行われる。



河井寛次郎 《海鼠釉片口》

害者手帳ご提示で300円になる。また、開館時間は午前10時から午後5時(最終入館・午後4時30分)で、休館日は毎週月曜日(祝日の場合は翌火曜日、ただし11月18日、25日、12月2日、9日、24日は開館)と年末年始休館(2013年12月26日〜2014年1月3日)、展示休館(2014年1月14日〜16日)となっている。